

第3章 障害者福祉団体調査

(1) 団体の概要

問1 貴団体の名称、連絡先等についておたずねします。

- ・市内11団体のうち、5団体から回答があった。

問2 貴団体の設立年をご記入ください。

- ・設立年は、1970年代が3団体、80年代が1団体、2000年以降が1団体となっている。

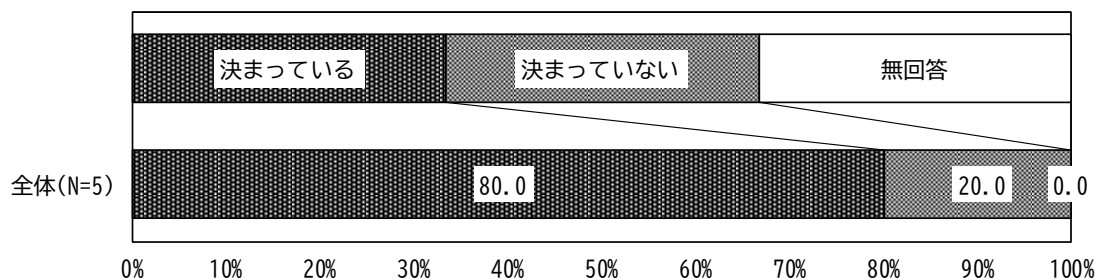
問3 貴団体の令和7年9月1日時点の会員数、運営に携わっている人数を記入してください。

- ・会員数の平均は44.6人となっている。
- ・運営に携わっている人数の平均は7.4人となっている。

問4 貴団体の活動拠点は決まっていますか。(1つに○)

- ・5団体中、4団体は「決まっている」(80.0%)と回答している。

図表 活動拠点の有無(全体)



問4-1 問4で「1. 決まっている」と答えた方におたずねします。

活動拠点はどこですか。具体的にお書きください。

- ・「決まっている」(80.0%)と回答した4団体の具体的な場所は、「府中市市民活動センター・プラッツ」、「生涯学習センター、ルミエール府中」、「プラッツ、生涯学習センター」、「ル・シーニュ」となっている。

問5 貴団体の運営にかかる経費の収入源は何ですか。次の項目の中から、収入が多いものから順に、

へ番号を記入してください。(それぞれ番号を1つ記入)

- ・収入源として最も多いものは、「会員からの会費」(80.0%)、「市からの補助金」(20.0%)となっている。2番目に多いものは「市からの補助金」(40.0%)、「会員からの会費」(20.0%)、3番目に多いものは「市以外からの補助金」(40.0%)、「寄付金」(20.0%)となっている。

図表 運営経費の収入源(全体)

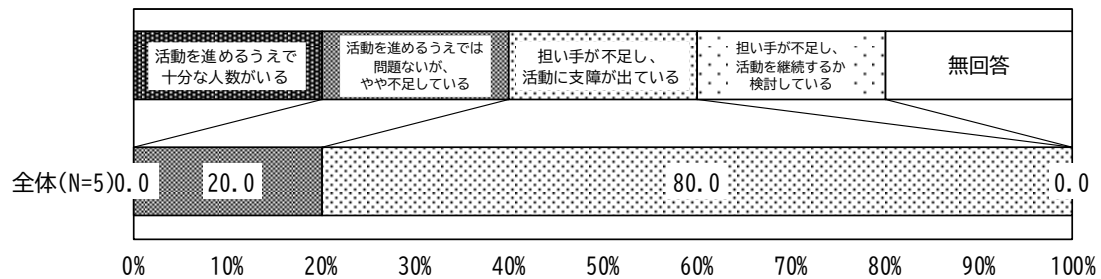
(N=5)	最も多いもの		2番目		3番目	
	団体数	割合(%)	団体数	割合(%)	団体数	割合(%)
市からの補助金	1	20.0	2	40.0	0	0.0
市以外からの補助金	0	0.0	0	0.0	2	40.0
寄付金	0	0.0	0	0.0	1	20.0
会員からの会費	4	80.0	1	20.0	0	0.0
事業収入	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	2	40.0	2	40.0

問6 貴団体の活動に関わる現在の状況についておたずねします。

(1) 団体の活動の担い手は活動を進めるうえで足りていますか。(1つに○)

- ・「会員が不足し、活動に支障が出ている」(80.0%)が最も多く、次いで「活動を進めるうえでは問題ないが、やや不足している」(20.0%)が続いている。

図表 活動の担い手の充足度(全体)

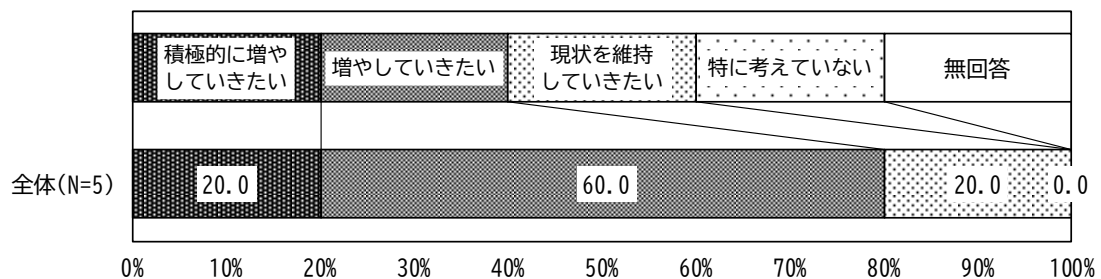


問6 貴団体の活動に関わる現在の会員の充足状況についておたずねします。

(2) 今後の会員数の充実について、どのように考えていますか。(1つに○)

- ・「増やしていきたい」(60.0%)が最も多く、次いで「積極的に増やしていきたい」と「現状を維持していきたい」(それぞれ20.0%)となっている。

図表 活動の担い手の今後の充実意向(全体)



問6 貴団体の活動に関わる現在の会員の充足状況についておたずねします。

(3) 団体の活動を続けていくうえで、課題となっていることは何ですか。

- ・活動を続けていくうえで課題となっていることとしては、新入会員がほとんどおらず、会員の高齢化が進んでいることを挙げている団体が多い。

<具体的な意見>

【府中視覚障害者福祉協会】

- ・会員の高齢化。「見えない、見えにくい」と言う部分を手伝ってもらうスタッフがいらない。

【府中市パーキンソン病友の会・のぞみ会】

- ・難病をかかえているメンバーなので、体調が悪い時は欠席するメンバーもいます。
- ・積極的に関わってくれるメンバーを増やそうとする姿勢は持て続けていかなければなりません。

【肢体不自由児者父母の会】

- ・新しい会員の入会がほとんどなく、若い世代の会員が減ってきているため、会全体として高齢化が進み、活動に参加できる人が限られてしまって、負担が増している。

【府中進行性筋萎縮症協会】

- ・新入会者がほとんどいない。
- ・後継者がいない。

【自閉症児者親の会】

- ・会員の高齢化、会員の意識。

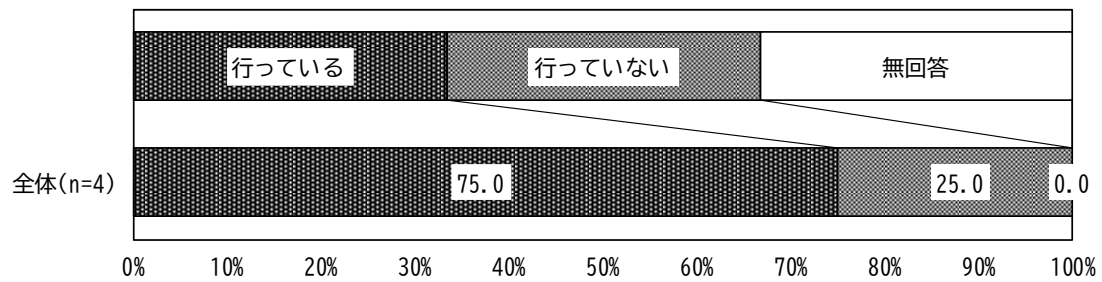
問6-1 問6(2)で「1」または「2」と回答された方におたずねします。

貴団体では、会員を増やすために何か取り組みを行っていますか。(1つに○)

- ・問6(2)で「積極的に増やしていきたい」、「増やしていきたい」と回答した4団体のうち3団体が増やすための取り組みを「行っている」(75.0%)と回答している。

図表 会員を増やすための取り組みの有無(全体)

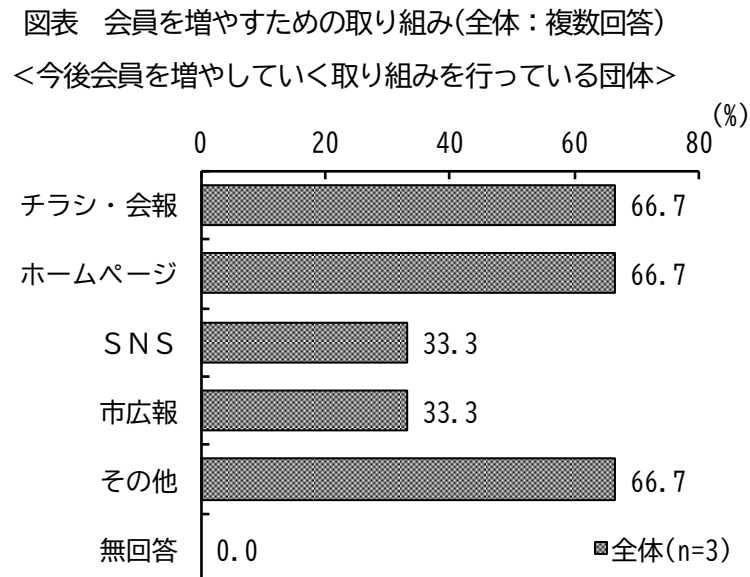
<今後会員を増やしていきたい団体>



問6-2 問6-1で「1. 行っている」と回答された方におたずねします。

貴団体では、どのような取り組みを行っていますか。

- ・活動の担い手を増やすための具体的取り組みとして行っていることは、「チラシ・会報の配布」と「ホームページ」（それぞれ 66.7%）が同率で最も多く、次いで「SNS」と「市の広報」（それぞれ 33.3%）となっている。



<その他>

【府中視覚障害者福祉協会】

- ・福祉まつりや市民協働まつりへの参加
- ・ラジオ TAMA リバーでの番組

問7 活動するうえで困っていることはありますか。(いくつでも○)

- ・「後継者問題」(100.0%)で最も多く、次いで「運営方法」と「会員の意識」(それぞれ60.0%)、さらに「事業の企画」と「活動場所の確保」、「行政支援」、「人的支援」(それぞれ40.0%)となっている。

図表 活動する上で困っていること(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合(%)
後継者問題	5	100.0
運営方法	3	60.0
会員の意識	3	60.0
事業の企画	2	40.0
活動場所の確保	2	40.0
行政支援	2	40.0
人的支援	2	40.0
社会の認識	1	20.0
財政的支援	1	20.0
ネットワークづくり	0	0.0
その他	0	0.0
特になし	0	0.0

問8 貴団体ではどのような活動していますか。また、団体の活躍の場としてどのようなことをやってみたいですか。

【活動内容】

- ・各団体の活動としては、医療や福祉に関する各種情報交換や勉強会、親睦会などの開催など、以下のような活動が挙げられている。

<具体的活動>

【府中市パーキンソン病友の会・のぞみ会】

- ・パーキンソン病患者とその家族、及びこの会の趣旨に賛同する人々が連帯してパーキンソン病患者の医療、福祉、療養生活の充実、向上を図ることを目的に活動。
- ・毎月の例会では、医療、福祉関係の勉強会や専門講師によるリハビリ指導を受けながら、懇親会や親睦会、レクリエーション活動なども行っている。
- ・LINEによる情報共有も行うため、LINEの利用方法についても勉強会を実施。

【肢体不自由児者父母の会】

- ・障害のある子と親同士の親睦と研修。
- ・障害当事者としてのニーズを行政機関へ要望。
- ・福祉の啓発活動。

【府中進行性筋萎縮症協会】

- ・月1回行っている定例会で、会員（患者と家族）が近況報告する中で悩み事の解決法や医療や福祉に関する情報交換を行っている。
- ・会員相互の親睦とボランティアと関わりを深めるレクリエーションや勉強会などの行事を開催している。

【自閉症児者親の会】

- ・会員同士の親睦を図り新年会を行う。
- ・協議会に参加し意見を提案する。
- ・障害者団体横のつながりの「障害者の未来を拓く会」に参加。

問8 貴団体ではどのような活動していますか。また、団体の活躍の場としてどのようなことをやってみたいですか。

【やってみたいこと】(いくつでも○)

- ・「障害に関するさまざまな情報の提供」と「当事者や家族などが気軽に交流できる機会の提供」(それぞれ 100.0%)が同率で最も多く、次いで「障害理解や合理的な配慮(日常生活での心遣い)などの啓発」と「当事者と家族に対する支援の強化」、「施策の検討に関する関与」(それぞれ 60.0%)、さらに「当事者とボランティアとのコーディネート機能の強化」(40.0%)が続いている。

図表 団体の活躍の場としてやってみたいこと(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合(%)
障害に関するさまざまな情報の提供	5	100.0
当事者や家族などが気軽に交流できる機会の提供	5	100.0
障害理解や合理的な配慮(日常生活での心遣い)などの啓発	3	60.0
当事者と家族に対する支援の強化	3	60.0
施策の検討に関する関与	3	60.0
当事者とボランティアとのコーディネート機能の強化	2	40.0
保育所や幼稚園、学校などでの療育指導(訪問支援)の充実	0	0.0
障害児の親の会などの立ち上げや活動の支援	0	0.0
専門員による子育て支援や教育の関係機関との連携強化	0	0.0
専門員による就労関係機関との連携強化	0	0.0
その他	1	20.0

(2) 団体の相談支援体制について

問9 貴団体では、障害者福祉に関する市の相談体制についてどのようなことを望んでいますか。

(いくつでも○)

- ・市の相談体制に望むことをたずねたところ、「情報提供の充実」と「当事者相談の充実」（それぞれ 100.0%）が最も多く、次いで「専門の相談員の充実」と「緊急時の対応の充実」（80.0%）、さらに「他分野との連携・ネットワークの充実」（60.0%）が続いている。
- ・障害者福祉団体への情報提供のあり方や相談環境のほか、緊急時の対応の充実等についても期待されている。

図表 市の相談体制に望むこと(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合 (%)
情報提供の充実	5	100.0
当事者相談の充実	5	100.0
専門の相談員の充実	4	80.0
緊急時の対応の充実	4	80.0
他分野との連携・ネットワークの充実	3	60.0
その他	0	0.0

問 10 ピアカウンセリング等、障害のある人への相談について、貴団体ではどのようなことができますか。
(いくつでも○)

- ・ピアカウンセリング等、障害のある人への相談について団体でできることをたずねたところ、「専門機関や相談窓口等の情報提供」(80.0%)が最も多く、続いて「ピアカウンセリングの実施」と「専門機関への相談内容のつなぎ」、「メールやオンラインでの相談対応」(それぞれ 60.0%)となっている。

図表 ピアカウンセリング等、障害のある人への相談についてできること(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合 (%)
専門機関や相談窓口等の情報提供	4	80.0
ピアカウンセリングの実施	3	60.0
専門機関への相談内容のつなぎ	3	60.0
メールやオンラインでの相談対応	3	60.0
出張しての相談対応	1	20.0
専門機関への相談者との同行	0	0.0
その他	1	20.0
特にできることはない	1	20.0

(3) 合理的配慮等について

問 11 合理的配慮がなされていない、差別を感じる場面はどのようなときですか。また、差別等の解消に向け、市と貴団体とともに取り組めることは何ですか。（いくつでも○）

【差別を感じる場面】

- ・ 合理的配慮がなされていない、差別を感じる場面はどのようなときかをたずねたところ、「福祉サービスが使いづらい」（80.0%）が最も多く、次いで「公共施設や交通機関が利用しづらい」（60.0%）、さらに「外出時に手助けが必要な時に受けられない」と「障害に対する周囲の理解がない」、「病院で医療を受けづらい」（それぞれ 40.0%）が続いている。

図表 合理的配慮がなされていない、差別を感じる場面(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合 (%)
福祉サービスが使いづらい	4	80.0
公共施設や交通機関が利用しづらい	3	60.0
外出時に手助けが必要な時に受けられない	2	40.0
障害に対する周囲の理解がない	2	40.0
病院で医療を受けづらい	2	40.0
情報を得たいとき、配慮されていない	1	20.0
働くときに配慮してもらえない	1	20.0
差別的な発言をされる	0	0.0
コミュニケーションをとりたいときに配慮されていない	0	0.0
その他	0	0.0
特になし	0	0.0

問 11 合理的配慮がなされていない、差別を感じる場面はどのようなときですか。また、差別等の解消に向け、市と貴団体とともに取り組めることは何ですか。（いくつでも○）
【市とともに取り組めること】

- ・差別等の解消に向けて市とともに取り組めることをたずねたところ、「各種障害者に関するマークの周知・啓発」(60.0%)が最も多く、続いて「地域住民・企業等に向けた周知・啓発」と「障害者差別解消法に係るイベントの企画」、「その他」（具体的記載なし）(それぞれ 20.0%)となっている。

図表 差別等の解消に向け、市と団体とともに取り組めること(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合 (%)
各種障害者に関するマークの周知・啓発	3	60.0
地域住民・企業等に向けた周知・啓発	1	20.0
障害者差別解消法に係るイベントの企画	1	20.0
筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション手段の設置	0	0.0
意思疎通のために絵や写真カード、ICT 機器（タブレット端末等）等の活用	0	0.0
その他	1	20.0
特になし	0	0.0

(4) 災害時の支援について

問12 震災等の災害の際に、避難や避難生活において、障害のある人への支援として、貴団体ではどのようなことができますか。また、どのような支援が必要だと思いますか。(いくつでも○)

【できること】

- ・震災等の災害の際に、障害のある人への支援として団体としてできることをたずねたところ、「検討したことがない」(40.0%)が最も多く、続いて「在宅サービス利用者への安否確認」と「障害のある人の一時的な受け入れ」(20.0%)が続いている。

図表 災害時の避難や避難生活において、障害のある人への支援でできること(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合(%)
在宅サービス利用者への安否確認	1	20.0
障害のある人の一時的な受け入れ	1	20.0
自宅から避難所までの移動支援	0	0.0
障害のある人の長期的な受け入れ	0	0.0
避難場所へのヘルパー等職員の派遣	0	0.0
医療機器が必要な方等への非常用電源の提供	0	0.0
非常用食料、衛生用品など物資の一時的提供	0	0.0
検討したことがない	2	40.0
その他	1	20.0

問12 震災等の災害の際に、避難や避難生活において、障害のある人への支援として、貴団体ではどのようなことができますか。また、どのような支援が必要だと思いますか。（いくつでも○）

【必要な支援】

- ・震災等の災害の際に、避難や避難生活において、障害のある人への支援としてどのようなことが必要かをたずねたところ、「在宅サービス利用者への安否確認」と「障害のある人の一時的な受け入れ」（それぞれ 80.0%）が同率で最も多く、次いで「障害のある人の長期的な受け入れ」と「避難先での医療・治療体制の整備」、「非常用食料、衛生用品など物資の提供」、「障害者のための避難訓練の実施」、「災害時に避難するための地域ぐるみの協力体制」（それぞれ 60.0%）が続いている。

図表 災害時に必要な支援(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合 (%)
在宅サービス利用者への安否確認	4	80.0
障害のある人の一時的な受け入れ	4	80.0
障害のある人の長期的な受け入れ	3	60.0
避難先での医療・治療体制の整備	3	60.0
非常用食料、衛生用品など物資の提供	3	60.0
障害者のための避難訓練の実施	3	60.0
災害時に避難するための地域ぐるみの協力体制	3	60.0
自宅から避難所までの移動支援	2	40.0
避難場所へのヘルパー等職員の派遣	2	40.0
障害に配慮した災害情報などの伝達体制の充実	1	20.0
その他	1	20.0

(5) 制度の谷間にある方への支援について

問 13 制度の谷間にある人が地域で安心して暮らすため、貴団体としてどのような支援ができると良いと思いますか。(いくつでも○)

- ・福祉制度の谷間にある人が地域で安心して暮らすため、団体としてどのような支援ができると良いかたずねたところ、「福祉サービスの情報提供」(40.0%)が最も多く、次いで「障害者が地域で共同生活できる場の提供」と「住まいに関する相談や入居支援」(それぞれ 20.0%)が同率で続いている。

図表 制度の谷間にある人が地域で安心して暮らすためにできる支援(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合 (%)
福祉サービスの情報提供	2	40.0
障害者が地域で共同生活できる場の提供	1	20.0
住まいに関する相談や入居支援	1	20.0
日中に障害者を預かるサービスの提供	0	0.0
寝泊りで障害者を預かるサービスの提供	0	0.0
シェアハウスなど多様な居住の場の提供	0	0.0
市民への障害への理解・啓発活動	0	0.0
移動・外出支援	0	0.0
自立生活のための体験の場の提供	0	0.0
就労に向けた相談	0	0.0
多様な働く場所の確保	0	0.0
仕事を継続するための相談	0	0.0
障害者の仲間づくりへの支援	0	0.0
障害者家族に向けた支援	0	0.0
防犯・災害時の協力	0	0.0
その他	0	0.0
特になし	0	0.0

(6) 地域共生社会づくりに向けた協力意向について

問 14 市では、障害に関する知識や障害のある人への理解を広め、お互いの個性を尊重し合い、つながり合い、支え合う地域共生社会を目指しています。地域共生社会の実現に向けて、様々な団体や事業者等との協働が求められていますが、貴団体としてどのようなことが必要だと思いますか。

(いくつでも○)

- ・地域共生社会の実現に向けて団体として必要なことをたずねたところ、「地域の集まりやイベントへの参加」と「ボランティア等の受け入れ」（それぞれ 80.0%）が同率で最も多く、次いで「地域の住民や学校に対する福祉の普及啓発（講座や講演会の開催等）」と「災害時の物資提供や避難所の支援」（それぞれ 40.0%）が同率で続いている。
- ・「その他」の意見としては、「障害のある人（子）とない人（子）が一緒にいることのできる場所や機会をつくる」との意見があった。

図表 地域共生社会の実現に向けて、様々な団体や事業者等との協働で必要なこと(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合 (%)
地域の集まりやイベントへの参加	4	80.0
ボランティア等の受け入れ	4	80.0
地域の住民や学校に対する福祉の普及啓発（講座や講演会の開催等）	2	40.0
災害時の物資提供や避難所の支援	2	40.0
その他	1	20.0
特になし	0	0.0

問 15 地域共生社会の実現に向けて、府中市民に意識を持ってもらう取り組みのほかに、団体として何か協力できることはありますか。（いくつでも○）

- ・ 市民向けの意識啓発の取り組みのほかに、地域共生社会の実現に向けて協力できることがあるかたずねたところ、「障害についての啓発」（60.0％）が最も多く、次いで「市で作成しているツールの周知（ちゅうファイル、防災ハンドブックなど）」（40.0％）、さらに「地域での見守りや困りごとの発見」と「災害時の安否確認」（それぞれ 20.0％）が続いている。

図表 地域共生社会の実現に向けて協力できること(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合（％）
障害についての啓発	3	60.0
市で作成しているツールの周知（ちゅうファイル、防災ハンドブックなど）	2	40.0
地域での見守りや困りごとの発見	1	20.0
災害時の安否確認等	1	20.0
福祉サービス等の情報発信	0	0.0
地域内の関係機関とのネットワーク化	0	0.0
その他	0	0.0
特になし	0	0.0

問16 貴団体では、活動するうえで、協働が必要だと感じているのは、どのような団体等ですか。

(いくつでも○)

- ・ 団体が活動するうえで、協働が必要だと感じているのは、どのような団体かたずねたところ、「障害者福祉団体」と「福祉分野以外の市民活動団体」、「町会その他の地域団体」、「行政」（それぞれ40.0%）が同率で最も多く、次いで「その他」（具体的記載なし）（20.0%）が続いている。

図表 活動するうえで協働が必要な団体等(全体：複数回答)

(N=5)	団体数	割合(%)
障害者福祉団体	2	40.0
福祉分野以外の市民活動団体	2	40.0
町会その他の地域団体	2	40.0
行政	2	40.0
障害者福祉団体以外の福祉団体（高齢者福祉や子ども福祉関連など）	0	0.0
民間企業	0	0.0
その他	1	20.0
協働が必要な相手は特になし	0	0.0

問16-1 問16で「1」から「7」と回答された方におたずねします。

他団体等と協働したい理由は次のどれですか。（いくつでも○）

- ・ 団体が他団体と協働したい理由をたずねたところ、「他団体とノウハウ・情報を共有するため」と「協働することに意義があるため」（それぞれ 50.0%）が同率で最も多く、次いで「活動の機会や場所を確保するため」と「他団体の人材を活用できるため」（それぞれ 25.0%）が同率で続いている。

図表 他団体と協働したい理由（全体：複数回答）

<協働が必要だと感じている団体>

(n=4)	団体数	割合 (%)
他団体とノウハウ・情報を共有するため	2	50.0
協働することに意義があるため	2	50.0
活動の機会や場所を確保するため	1	25.0
他団体の人材を活用できるため	1	25.0
より利用者や地域に貢献していくため	0	0.0
他団体の資金を活用できるため	0	0.0
その他（具体的記載なし）	1	25.0

(7) 障害福祉施策について

問 17 障害のある方を取り巻く現状や身近で感じている課題、府中市に希望することなど、特に気になる点についてご自由にお書きください。記入いただいた内容は、府中市の障害福祉施策を検討するための基礎資料とさせていただきます。

- ・ 障害のある方を取り巻く現状や身近で感じている課題、府中市に希望することなど、特に気になる点について具体的な項目を挙げて意見をたずねたところ、以下のようなご意見が寄せられた。

<具体的な意見>

1. 障害理解・意識啓発について

- ・ 公共交通機関の利用における優先席への配慮指導を教育機関（小学校・中学校・高校）として、十分な指導を行って欲しい。【府中市パーキンソン病友の会・のぞみ会】
- ・ 障害のある人となない人が当たり前に一緒に居る機会をつくり「知り合う」ことで本当の理解啓発を促してほしい。【肢体不自由児者父母の会】

2. バリアフリーの推進について

- ・ 設計の段階で様々な障害当事者の意見を聞き取り、きちんとそれを反映させてほしい。【肢体不自由児者父母の会】

3. 地域での見守りや支え合いについて

なし

4. 障害者福祉団体の活動支援や協働について

- ・ 市民活動センタープラッツでの会場使用料については、障害者福祉団体への費用負担の軽減ができるようにしていただきたい。また、1年前予約と支払いの仕組みを改善検討していただきたい。

【府中市パーキンソン病友の会・のぞみ会】

- ・ 福祉団体が定期的に活動できる場所が少ないため場所の確保。【府中進行性筋萎縮症協会】

5. 障害福祉サービス事業所への支援や協働について

- ・ 個の利用者対応だけでなく、団体に向けて具体的な支援策を提供して欲しい。【府中市パーキンソン病友の会・のぞみ会】
- ・ 設計の段階で様々な障害当事者の意見を聞き取り、きちんとそれを反映させてほしい。【肢体不自由児者父母の会】

- ・ 日常の様子を把握し理解してもらい事業所の支援の充実が必要。【府中進行性筋萎縮症協会】

6. 地域活動及び社会活動への参加促進

- ・ 車椅子でも日常的に利用できる体育館などが少ないため施設整備【府中進行性筋萎縮症協会】

7. 生涯学習・文化芸術活動・スポーツの機会について

- ・ 在宅でも就労できる機会が少ないため就労機会の確保。【府中進行性筋萎縮症協会】

8. 就労への支援について

なし

9. 障害のある人に対する差別の解消、虐待防止について

なし

10. 権利擁護の推進

なし

11. 相談支援の充実や意思決定支援について

なし

12. 情報提供・コミュニケーション支援について

なし

13. 地域生活を支えるサービスや住まい等の充実について

- ・重度心身障害者の住まいが市内にはほぼありません。住み慣れた府中で最後まで暮らしたいです。グループホーム、入所施設が必要です。【肢体不自由児者父母の会】
- ・住宅改修の条件や申請回数の見直し。【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・歯科医師会と協力して、障害者歯科対応サービスを整えてほしい。理髪を利用しやすいように、ボランティア団体と協力して利用の場をつくってほしい。【自閉症児者親の会】

14. 安心して生活できる環境づくり

- ・親亡きあと、また親が高齢化の中でも地域で在宅で安心して生活できる環境づくり。【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・福祉支援サービスの原則通りではない柔軟な運用をして、障害者家族が必要な支援を認めてほしい。突然の家族の病気で、送迎の手が足りなかった時、お願いしたら認めてもらえなかった。【自閉症児者親の会】

15. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて

なし

16. 災害時の支援体制や避難所について

- ・障害のある人とその家族が避難所で過ごすことは、非常に困難であるため、在宅避難者への物資と情報の提供と福祉避難所の充実は必須です。やむなく避難所を利用する人には必ず「家族避難」をできるようにしてください。【肢体不自由児者父母の会】
- ・在宅避難者への支援とネットワーク作りと避難所における呼吸器などの医療機器の電源確保。【府中進行性筋萎縮症協会】

17. インクルーシブ教育について

- ・今ある福祉課題は、長年の分離教育の結果によるものも多く、インクルーシブ教育がきちんとなされていけば、解決どころか課題ですらなくなると思います。【肢体不自由児者父母の会】

18. 乳幼児期から学齢期までの切れ目のない支援体制について

なし

19. 障害児への通所支援等のサービスについて

なし

問 18 市全体をみたときに、不足していると思われるサービスや支援はありますか。また、その理由はなんですか。

- ・市全体をみたときに、不足していると思われるサービスや支援をその理由とともにたずねると、以下のような具体的な意見が寄せられている。

<不足しているサービス>

- ①重度重複障害者（医療的ケアが必要な人を含む）が利用できるグループホーム等の住まいの場が極端に少なく、年々、会員が市外、都外に出ていかざるを得ない状況である。【肢体不自由児者父母の会】
- ②緊急一時保護・・・市独自の緊急一時入所事業はとてありがたい事業なのですが、医療的ケアが必要な人など、使えない人が多くいる。【肢体不自由児者父母の会】
- ③避難行動要支援者の対象者の拡大【府中進行性筋萎縮症協会】
- ④住宅設備改善事業や日常生活用具の申請回数や貸与年数制限の見直し【府中進行性筋萎縮症協会】
- ⑤医療的ケアの必要な難病や障害者の緊急一時的に利用できる施設と難病患者グループホームの不足【府中進行性筋萎縮症協会】

<その理由>

- ①重度重複障害者のグループホームは、既存の住宅を利用できないため施設整備（土地・建物）もお金がかかるなど難しい。運営のための人材確保も専門性が必要なため難しい。【肢体不自由児者父母の会】
- ②重度や医療的ケアの人が利用するには、看護師が必要。【肢体不自由児者父母の会】
- ③～⑤現在あるサービスや支援の中で、医療的ケアの必要な障害者に対する支援と社会や個々のニーズに合わせたサービスや支援が不足していると思われるため。【府中進行性筋萎縮症協会】

問 19 府中市の障害等のある人の施策に関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・市の障害福祉施策への意見・要望について自由記述形式でたずねたところ、福祉施設の整備や福祉サービスの充実、制度運用の見直しなどについて幅広い意見が寄せられている。

<具体的な意見>

- ・心身障害者福祉センターの老朽化に伴う建て替えの際には、ぜひとも安全な土地に移転して（例えば生涯学習センターの跡地など）、すべての障害者や事業者の支援拠点となるよう、機能を充実させてください。【肢体不自由児者父母の会】
- ・どんな障害があっても、最後まで府中市で暮らせるよう、施設整備やサービスの充実をお願いします。【肢体不自由児者父母の会】
- ・いわゆる「動ける医療的ケア児者」等、既存の制度の対象からはずれてしまって支援が受けられない人が増えています。誰でもどんな障害でも、必要な支援が受けられるよう実態に合わせた制度の運用や見直しをお願いします。【肢体不自由児者父母の会】
- ・高齢化社会の中、いつまでも地域で安心して暮らせるように、いつでも相談できる地域とのつながりを持ちながら、福祉・医療・保健・地域のネットワーク作りができる、施策・社会であることを願っています。【府中進行性筋萎縮症協会】
- ・府中市に福祉公社をつくって、障害者福祉全体の支援サービス充実させてほしい。【自閉症児者親の会】